

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530853

研究課題名(和文)若手FD担当者が抱く問題意識とキャリア展望

研究課題名(英文) Awareness of the issues and Career perspective in young faculty development practitioners

研究代表者

大塚 雄作(Otsuka, Yusaku)

京都大学・高等教育研究開発推進センター・教授

研究者番号：00160549

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、若手FD担当者が抱く不安やキャリア展望について量的・質的検討を行ってきた。量的検討の結果、学部など他部局との連携や業務を通じたキャリア展望を持つことが、FD担当教員の業務に対するやりがいや不安と関連を持つことが示された。また、質的検討の結果、業務に対する不安をFD担当教員の多くが抱えており、その内容として「業務を超えた個々の教員の人生・人格にまで浸透した不安の存在」が明らかになった。これらの検討から、FD業務を担当する組織の課題として、FDの専門的知識を持った教員の育成やFDのネットワーク化による専門的知識の共有、更には彼らのキャリアモデルの検討などが必要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to examine the feelings and future career perspective to work of junior faculty members engaged in Faculty Development(FD). The major findings of this study were as follows：(1) The cooperation with other departments and future career perspective related to anxiety and work meaningfulness in junior faculty members. (2) The anxiety included a problem of their life career and personality. Consequently, the problems of organization engaged in FD were as follows：(1) development of expert in FD, (2) development of the FD network to share knowledge, (3) investigation of faculty's career belonging to the organization.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：Faculty Development

1. 研究開始当初の背景

高等教育における FD (Faculty Development) の広がりに伴い、国公立を中心としてここ数年でこれらの業務を専門的に担当する大学教育センターを設立する大学が増加している。

このように、FD に関する動きは活発になっている一方で問題も数多く存在する。まず、大学における人的資源の不足があげられる。大学教育センターや FD 委員会などの組織は設置されているが、仕事量に対して業務に従事する人員、特に専任スタッフが少ないという問題がある。さらに大学教育センターの設置が近年に集中したため、少ない専任スタッフの多くを比較的若手教員が占めているという現状がある。FD の目的が大学全体の教育力の向上であることを考えると、大学の組織マネジメントに関わることのできるポジションが不可欠であるが、現状ではそうした人員が配置されていることは少ない。また、FD 活動の指針、組織評価の観点などが明らかになっていないため大学教育センターや FD 組織の位置づけ、業務内容そのものが不明瞭であることが多い。そのため、FD 実施組織ができたが故に、本来全学的に取り組むべき課題まで大学教育センター等に集中してしまうといった問題が生じている(大塚ら 2008)。

また、FD 業務に関わる教職員の増加に伴い、若手教員特有の困難さが指摘されている。例えば半澤ら(2010)は、現代の大学の大きな課題となっている FD 業務に対して、若手教員が大学教員としての発達段階に基づかない形で取り組むことの問題を指摘している。これは、教育経験の少なさや学内での立場の弱さといった、大学教員としてのキャリアの浅さに関わる問題として捉えることができるだろう。そしてそのような若手教員が FD 業務に取り組むことは、彼らの孤立を引き起こすこともある(杉原ら 2009)。また、それ以外にも FD に関わる若手教員の問題として、特に大学教育に関するセンターにおいて任期付き教員が多く、不安定な状況のまま大学教育改善の業務に取り組まなければいけないこと(石川ら 2009)なども若手教員特有の困難さとして指摘されている。

こういった FD 業務に関わる若手教員が抱える困難さは、彼らの FD 業務に対する意識や実際の活動に否定的な影響を与えたり、彼らの大学教員としてのキャリア形成に阻害的に作用する可能性があるといえる。そして FD 業務に関わる若手教員のそのような問題は、最終的には彼らが所属する大学組織の発展にも否定的な影響を与えかねない。従って、若手 FD 担当者が持つ業務に対する意識や業務を通じたキャリア展望、そしてそれらに基づく若手支援の視点を実証的に明らかにすることが重要だと考えられる。

2. 研究の目的

先に述べた研究背景に基づき、本研究課題では次の三点を明らかにすることを目的とした。

(1) 若手 FD 担当者の業務・問題意識について実態を把握すること

(2) 若手 FD 担当者のキャリア展望について調査し、有効となる知見を明らかにすること

(3) 大学組織が若手 FD 研究者を支援するための知見を導出すること

3. 研究の方法

研究目的(1)については、全国の若手 FD 担当者に対してどのような業務を担っているのか、そしてそれに対してどの程度不安を感じているのか、またその理由は何なのかといった点を問う質問紙調査を実施し、量的な分析と自由記述結果をもとにした質的な分析を行った。

研究目的(2)については、次の2つの方法を用いた。1つ目として、(1)において実施された質問紙調査において、キャリア展望について問う質問項目を設定し、(1)と同様に量的・質的な分析を行った。2つ目として、若手 FD 担当者に対して、これまでの研究者としての活動、現職における FD 担当者としての業務についてインタビュー調査を行ない、ライフヒストリーの観点から研究者としてのキャリア展望について質的な分析を行った。

研究目的(3)については、大学における大学教育センターのあり方について、特に人的マネジメントの観点から文献調査を行った上で、(1)(2)の結果を踏まえて、考察を行った。

4. 研究成果

若手 FD 担当者が抱える不安ややりがい、キャリア展望についての量的・質的研究(研究の目的・方法(1)(2)と対応)

研究方法(1)(2)で示した量的な研究によって得られた結果を以下に示す。

ここでは、若手 FD 担当者が抱える業務に対する意識、特にの困難さの程度を「業務に基づく不安」として測定し、そのような不安と関連を持つ可能性のある個人内要因を「業務に対するやりがい」として測定した。そしてこれら2つと、キャリア展望やその他業務に関する変数との関連について検討を行った。

若手 FD 担当者 176 名、FD 部局代表者 165 名の回答の分析を行った結果、大学教育センター所属の教員の方が FD 委員会所属の教員よりも、また代表者は、若手教員よりも FD 業務に対するやりがいが高いことが明らかとなった。次に、こうしたやりがいや不安に影響を与える要因として、委員会所属の教員

においては、他の部局（学部など）と連携が取れていることとFD業務を自身のキャリア展望に位置付けられることがやりがいを増すことにつながる可能性が示唆された。大学教育センター所属の教員については、キャリア展望とやりがいのみ関連が見られると言う結果であった。

次に研究方法（１）（２）で示した質的な研究によって得られた結果を以下に示す。

ここでは、若手FD担当者が抱える業務に対する不安やキャリア展望について、自由記述を用いた質問紙調査およびライフストーリーインタビューを用いた面接調査で検討を行った。

質問紙調査の結果（対象者は量的な研究と同様である）、業務に対する不安に関しては、FD担当教員の多くが業務に対して不安を抱えており、その具体的な内容としてA：FDの内容に関するもの、「B：自分自身」に関するもの、「C：構成員、実施・支援体制」に関するものがあることが明らかとなった。

「A：FDの内容」に関するものには、「A-1：FDの意義・構想・内容の不明瞭さへの不安」「A-2：FDの意義・構想・内容のズレ・違和感への不安」などが、「B：自分自身」に関するものには、「B-1：多忙による他業務への影響への不安」「B-2：多忙による心身の疲労への不安」「B-3：キャリア形成の不安定さへの不安」「B-4：危うい立場への不安」「B-5：できることが制限される立場への不安」「B-6：経験・力量不足への不安」などが、「C：構成員、実施・支援体制」に関するものには、「C-1：教員の意識の低さへの不安」「C-2：実施・支援体制の不備への不安」などが下位項目として存在することがわかった。そしてこれらの背景について、「業務を超えた個々の教員の人生・人格にまで浸透した不安が存在すること」が明らかになった。ここから業務に対する不安がFD担当教員のキャリア展望形成に阻害的に働く可能性が示唆された。

また、若手FD担当者3名に対する面接調査の結果、次の5点が明らかになった。

1点目として、業務に対する不安やキャリア展望が「自らの専門分野における活動」と結びついていることが明らかになった。若手FD担当者は、それぞれが専門とする研究分野を持っており、それがFD活動と直接結びつかない場合も多い。このような現状に起因する不安や、明確なキャリア展望の持てなさが存在している可能性が示唆された。

2点目として、業務を通じた「長期的なビジョンの保持」ができるようになる可能性が示唆された。これまで述べてきた業務に対する不安やキャリア展望の曖昧さが存在する一方、FD業務を担当する中で若手FD教員が長期的なビジョンを持つことができる可能性も示唆された。

3点目として、業務を通じた「大学人としての責任」が若手FD担当者に生じる可能性

が示唆された。

4点目として、業務を進める上で「過去の失敗した経験」が重要な意味を持つことが示唆された。過去の経験をふまえることで、今後の業務の見通しを立てていることが明らかになった。

5点目として、若手FD担当者が業務を進める上で「組織的な配慮」が重要であることが示唆された。組織的な配慮があることで業務に対する不安を軽減したりキャリア展望を形成することができるようになる可能性があると考えられる。

実証的調査の結果に基づく、大学組織が若手FD研究者を支援するための提案（研究の目的・方法（３））と対応）

FD担当者の不安が軽減されることは、FD担当者本人の心身の健康と健全なキャリア形成を促すだけでなく、それにより、業務にかかる生産性が向上され、組織としての業務の質の向上を実現することにつながると考えられる。本研究課題によって行われた調査によって明らかになった知見から、FD担当者を支援するための体制づくりの提案として以下の2点をあげる

1点目として、主に業務に対する不安との対応においては次のような提案が考えられる。それは、FDの意義・構想・内容の明瞭化による業務内容の精選、担当スタッフの増加と適切な役割分担、業務過多へのチェック、業務のメリハリ化、業務内容や業務量を視覚化し共有化できる工夫等を行うということ、経験・力量の多い者と少ない者との協力体制による知識技能の不足の補助・オンザジョブトレーニングの機会の保証、各々の強みを活かせるシステムの構築などである。そして、FDの専門的知識技能を持ち合わせる教員の養成、FDのネットワーク化による専門的知識技能の共有等も有効な手段であると言えるのではないだろうか。

2点目として、主にキャリア展望との対応においては次のような提案が考えられる。それは、任期なしのポストへの昇進、多様なキャリア形成に対応できる・次の就職に向けた研究・FD業務双方の業績づくりへの時間的・資源的配慮、キャリア形成にかかる相談が日常的に行われるシステムづくり、キャリアモデルの整理等である。

最後に、1つ目の提案と2つ目の提案は独立するものではなく、相互に関係づけられながら実施される必要がある。また、これらの配慮・対応が有効であるかどうかについては、今後の実践的研究が必要となろう。さらには、FDにかかる諸状況は日々変容しているため、FD担当者が担う業務の種類や状況や変容と不安要素との関連についても検討を進めていく必要がある。いずれにせよ、FD担当者の継続的で詳細な状況

分析を進めていくことが今後も求められることは間違いない。その道のりは、決して楽なものではないが、それがFDおよび高等教育を実践し、かつ研究する者としての責務だと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

田口真奈・半澤礼之・杉原真晃・村上正行(2012). 若手FD担当者の業務に対する「やりがい」と「不安」—他部局との連携とキャリア展望の観点から— 日本教育工学会論文誌,36,3,327-337.

杉原真晃・半澤礼之・村上正行・田口真奈(2014). 若手FD担当者が抱える不安の量的および質的研究 - 雇用形態・授業経験年数・FDへの関わり方との関連に着目して— 山形大学高等教育研究年報,8,36-41.

〔学会発表〕(計1件)

杉原真晃・佐藤万知・半澤礼之・村上正行(2013). FD担当者が抱く問題意識とキャリア展望 第19回大学教育研究フォーラム発表論文集

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

大塚 雄作 (Otsuka, Yusaku)
京都大学高等教育研究開発推進センター・教

授

研究者番号：00160549

(2)研究分担者

杉原 真晃 (Sugihara, Masaaki)

山形大学基盤教育院・准教授

研究者番号：30379028

村上 正行

京都外国語大学マルチメディア教育センタ

ー・准教授

研究者番号：30351258

半澤 礼之

北海道教育大学教育学部・准教授

研究者番号：10569396